



## カイミジンコ化石から探る秋吉台の古環境

山口大学大学院創成科学研究科 (理学) 助教 岩谷 北斗  
山口大学理学部地球圏システム科学科 4 回生 竹内 美優  
美祢市立秋吉台科学博物館 学芸員 藤川 将之

カイミジンコという生き物の名前を聞いたことがありますか？カイミジンコは、水の中に生息している体の大きさが 1 mm 以下程度の小さな生き物で、カニやエビの仲間（甲殻類）です。殻をもったミジンコのような生き物なので、カイミジンコと呼ばれています（図 1）。

あまり聞きなじみのないカイミジンコですが、決して珍しい生き物ではなく、私たちの身の回りでもみることができます。例えば、夏に水田をのぞいてみると他の水生生物と共に動き回っているものを簡単に見つけることができます。

このカイミジンコは、水田だけではなく、湖や水たまり、深い海の底などあらゆる水域に生息しています。そして、彼らは生息する場所の水温や塩分などの変化に敏感に反応し、その数や種類などを変化させるため、重要な環境指標・生物指標とされています。

実は、このカイミジンコの化石が、秋吉台からも見つかっています。いまから、三億年以上も前の恐竜が現れるよりもっと昔の時代の化石です。しかし、秋吉台から見つかっているカイミジンコの化石は、どのような種類なのか？どのような特徴をもっていたのか？など詳しいことがよく分かっていません。なぜなら、秋吉台の化石は、石灰岩という硬くて緻密な石の中から見つかるため、化石だけを取り出し観察することが簡単ではないからです。石灰岩の中に含まれる化石は、石を磨き、その切断面を観察することにより研究されることが多く、そのため得られる情報も二次元的です。

そこで、私たちの研究室では、秋吉台の石灰岩を酢酸などの薬品で処理することにより、化石を立体標本として取り出し、立体観察に基づく古生物学的な研究を行うことを目的として、秋吉台科学博物館と協力して研究を進めています（図 2）。とくに、上で述べたように重要な環境指標・生物指標であるカイミジンコの化石を石灰岩中から取り出すことで、その実態を明らかにすることを目指しています。まだカイミジンコだと断定できる化石を取り出すことはできていませんが、カイミジンコをはじめとした小さな化石から得られる情報から秋吉台石灰岩の形成された当時の環境や生物相をより詳しく解明したいと考えています。



図 1 カイミジンコの殻の写真  
(白い線の間は長さ約 4.5 mm)

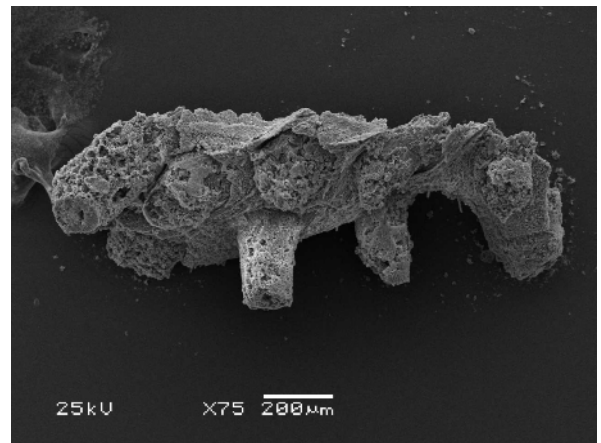


図 2 酢酸処理により石灰岩中から抽出されたコケムシ類と思われる化石